

平成24年度

## 学校関係者評価書

大阪市立海老江東小学校  
学校関係者評価委員会

### 1. 全体のまとめ

児童の実態に合わせて、指導の方針を定め、教育指導の計画に位置づけて、しっかりと学校が取り組んでいることがよくわかる。反復学習や視写、毎日の朝読書、習熟度別少人数学習等によって、基礎的な学力が育ってきている。中学校の先生とTTをしている教科もあり、連携が進みつつある。これからも学校行事なども含めて、表現力や公德心を育てる教育に取り組んでほしい。

### 2. 項目別評価について

(1) 学校経営の重点	(2) 学習指導の重点
習熟度別や少人数など、学習形態を工夫した学習によって、子どもたちは、意欲的に学習し、全国学力学習状況調査では、全国平均に比べて高くなっている。また、学芸会では、のびのびと表現する姿が見られ、教職員の連携の良さも感じられた。あいさつや公德心などがさらに育つことを期待したい。	視写や反復学習タイムの設定により、書く力や計算力が定着してきている。また、習熟度別少人数学習など学習形態や個別の支援を工夫することによって、子どもが意欲的に課題に取り組んでいる様子がよくわかる。また全国学テにおける強みと弱みが中学校と同じ傾向があることから、家庭や地域の力が強く働いていることがうかがえる。小中連携による系統立った指導が大切だ。戦争体験などゲストティーチャーとして参加しているが、子どもたちは戦争についてよく理解してくれたが、戦後世代の保護者にも聞いてほしい。
(3) 生活指導の重点	(4) 保健管理・指導の重点
家庭での指導ももちろんだが、日々の学級指導や朝会指導により、基本的なルールやマナーは身につけていると思う。卒業式に参列すると、1年生のときにやんちゃだった子どもが、6年生になるとこんなに立派に育ったのかと感激している。隠れたいじめはないか。児童290名中7名が「学校が楽しくない」と答えている。今後の指導や対策が必要。	冬期には、なわとび・マラソンカードを作成し、目標を持って頑張る児童がたくさんいることは、健康な体づくりにとってもよい。体力など、小学校と中学校の強みと弱みが似ている。さらなる連携によって、系統だった指導が求められる。
(5) 研修の重点	(6) 努力目標
教員が、研修会の内容や形態を工夫し、研鑽していることはとても大切である。これからもよりよい指導をめざしてもらいたい。 研修の成果が実感できるような授業を保護者や地域住民に積極的に公開していくことが必要。	P T Aとして玄関に立って挨拶しても、知っている子どもからしか挨拶が返ってこない。関係性がないとできないので100%できるようにするのは難しい。相手の顔を見てにっこりと大きな声ですると、たいがい子どもは挨拶をしてくれる。教師との関係性が大切。形式のみを言うのではなく、全部の教師が子どもたちみんなの顔を見ながら大きな声ですれば返ってくるのではないかな。

### 3. 今後の改善方策について

- ・子どもの実態に合わせ、学習形態や学習過程のさらなる工夫に努める。
- ・学習や行事を通して、表現力を高める取り組みを継続してほしい。
- ・小中連携により、学力、体力ともに、高い力をより高め、低い力を伸ばす系統だった指導を行う。
- ・気持ちのよい挨拶が、学校でも地域でもできるようにする。